



入れ口にズレが発生したら機械を調整する

フィルムロールが不足していないかモニター

出来上がった製品を封入する



CASE 01

株式会社精工 宮城工場（加美町）

製袋課

早坂 麻衣さん(21歳) 佐々木 愛華さん(20歳)

Hayasaka Mai

Sasaki Aika

仕

事

図

鑑

「特集」ものづくりにかける

カスタマイズの対応力と 一貫生産による短納期が強み



株式会社精工は主に農産物包装用フィルム製品の製造を手掛ける企業です。強みは、クライアントごとの要望やニーズに合わせたカスタマイズができる対応力と、印刷から各種加工まで自社一貫生産による短納期の実現です。農産物の形状や大きさ、硬さ、鮮度が落ちやすいなどの特性に合わせてさまざまな特長を持つパッケージを提案、製造。農産物を「入れやすく、出しやすい」「商品棚に置きやすく、目に留まりやすい」「傷みにくく、できる限り鮮度を保つ」ための加工を工夫し、技術開発を行っています。

活版印刷業で創業した歴史から印刷の美しさと品質に定評があり、単色から多色まで柔軟に対応。こだわりの、袋の外側に印刷する「表刷り印刷」。この手法は中身が直接インキに触れないというメリットの反面、非常に高い技術が必要としますが、同社は「大切な作物を安全に消費者のもとへ届けたい」という思いで表刷り印刷に特化しました。

袋状に仕上げず、フィルムに図案を印刷してロール状に巻き取った（スリット加工）状態での納品も行います。これは農産物の栽培工場から収穫から充填、包装までを機械で行う場合に利用されるものです。精工では高知と茨城にも製造拠点があるため、宮城工場は主に東北・北海道の需要に対応しますが、同工場だけが持つ特殊な機械や技術で作られた製品は全国各地へ届けられています。

枚数が不足していないかどうか確認。機械化が進んでも、人の手と目にしかできない仕事がたくさんあります。チェックが終わった製品は規定の枚数を封入し、段ボール箱に収めていきます。

機械に不具合が起きたり、フィルムのロールの補充が必要になったりした際はブザーでオペレーターに知らせ、対応してもらいます。入れ口の合わせが1、2ミリずれた場合などは、一旦機械を止め自分で微調整を行うことも。佐々木さんは「決まった時間内にできるだけでなく、さんの袋を生産することが日々の目標」と話し、「だから自分でできる調整はオペレーターを頼らずにやらないと」。機械のスピードに負けずに手を動かしながら、目は製品と機械全体とフィルムの残量を常にチェックしています。



昔は農産物の木箱のラベル印刷などを手掛けた

会社概要

株式会社精工 宮城工場

所在地	〒981-4263 宮城県加美郡加美町字雁原81-1
TEL	0229-63-5533（代）
URL	https://seikou-web.com/
代表	代表取締役社長 林 正規
設立	1950年8月
従業員数	582人（グループ計632人） （2022年3月時点）



学校の先生を通してご連絡ください

「製袋（せいいたい）2係」とプレートが付けられた扉を開けると、ずらりと10台ほどの機械が並んでいました。1台に一人ずつ担当者が付き、機械が高速で作り上げていくフィルム製のパッケージを検品、計量して封入、箱詰めをしていきます。入社4年目の早坂麻衣さんと3年目の佐々木愛華さんも、担当する機械の脇に立ち作業に集中していました。

株式会社精工は1991年に大阪で創業した歴史ある企業。当初は活版印刷業からスタート、戦後は農産物包装用のプラスチックフィルム資材を取り扱う商社として発展しました。経済成長とともに業界の技術開発が進み、鮮度保持など機能性の高いフィルムが開発されると需要が

一枚のフィルムから生まれるパッケージ 野菜・果物をフレッシュに包装

急増。同社は1993年、高知県に初の自社フィルム加工工場を新設しました。需要はますます拡大し、1995年に宮城県、その後茨城県にも工場を竣工。現在宮城県では第三工場まで稼働し、フィルム印刷から加工、製袋まで一貫生産を行っています。

「あっ、この袋見たことある！」 身近な製品を作る仕事に感じた魅力

早坂さんと佐々木さんは製袋課2係に所属。宮城工場ではパッケージ製造を行う製袋課には4係まであり、2係では野菜や果物を包装するための袋を作っています。一年違いで入社した二人はとても仲が良くいつも笑顔でおしゃべりしては、工場内の雰囲気明るくします。

二人は共に地元の加美農業高校出身。早坂さ

機械化・自動化が進む業界 それでも人にしかできない仕事がある

入社当初は、覚えることが多く、立ちっぱなしで体力的にも疲労がたまり「休みが待ち遠しかった」。そんな「新米パッカー」たちがこの仕事を好きになったのは、何より職場の先輩たちの明るさと優しいさのおかげだそう。早坂さんは「慣れれば皆さんすぐく面白くて、毎日笑いが絶えません」。佐々木さんは高校の一年先輩の早坂さんと早く仲良くなりたくて、「話しかけてもらったときはすごくうれしかった」そうです。

入社当初は、覚えることが多く、立ちっぱなしで体力的にも疲労がたまり「休みが待ち遠しかった」。そんな「新米パッカー」たちがこの仕事を好きになったのは、何より職場の先輩たちの明るさと優しいさのおかげだそう。早坂さんは「慣れれば皆さんすぐく面白くて、毎日笑いが絶えません」。佐々木さんは高校の一年先輩の早坂さんと早く仲良くなりたくて、「話しかけてもらったときはすごくうれしかった」そうです。

農産物を産地から消費者へ 安全に鮮度よく届ける技術力



一年先輩の早坂さん（右）と佐々木さん



一枚のフィルムが機械を通過して袋状になる



チャック部分がきちんと付いているか目視で



決まった枚数ごとに揃える



判断に迷うことは必ず先輩に相談



袋状になった製品を検品する

先輩の声



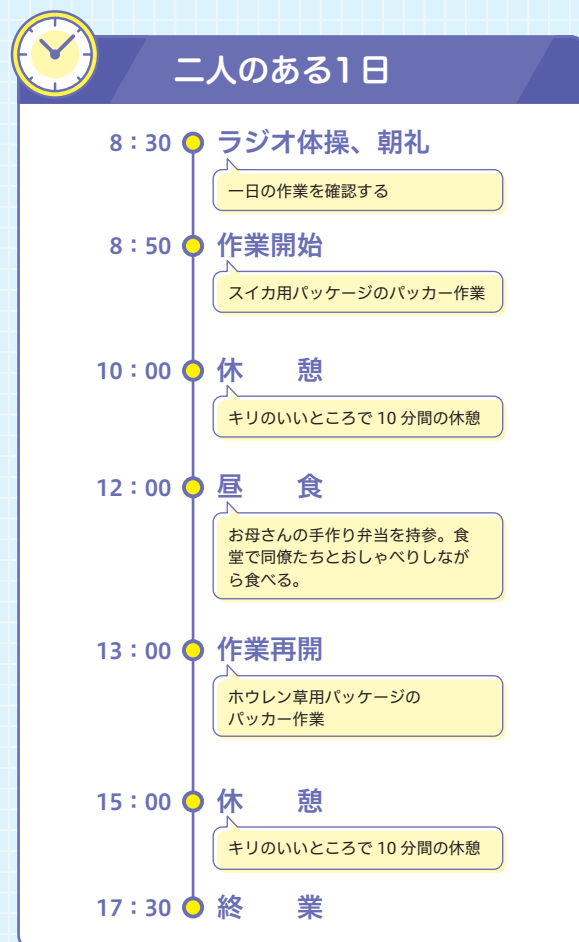
製袋課2係
主任
古内邦子さん

素直さがもたらす成長 職場を明るく照らす存在

とにかく素直で明るく、真面目な二人です。「わが子よりかわいいね」と同僚と笑い合うほど、職場になじんでくれてありがたい存在。早坂さんはコミュニケーション力が抜群で、新人の頃は何でもよく聞きにきていました。4年目の今では職場で人同士をうまくつないでくれたり、周囲のフォローもしてくれたり、頼もしくなりました。佐々木さんは手先が器用で飲み込みが早く、目に見えて成長していきます。静かにコツコツ頑張るタイプ。私が若い頃はこんなにできなかったから感心するし、先が楽しみです。

注文を付けることはほとんどありませんが、私たちも含めて仕事に慣れると基礎的な事柄がおろそかになりがち。日々の地道な仕事に手を抜かないことをお互い気をつけたいです。

二人がいると職場が明るく笑いに包まれます。ポジティブな空気で満たされると、ミスも減り作業効率も向上するもの。これからも元気を振りまいてほしいです。



高校を出て働くという選択 社会を知り責任を担い、誇りを持つ

仕事のやりがいを見つめると、異口同音に「スパーでうちのパッケージを見つけたとき!」「鍋のイラストがついたネギの袋が気に入ってるの、

入社当時、佐々木さんは職場で緊張しがちで、機械の不具合をオペレーターに説明する際もうまく伝えられずにいました。いつも元気で明るく積極的な早坂さんに憧れ、「自分の言葉でハキハキ話せる麻衣ちゃんを、うらやましく思いました」と打ち明けます。そんな自分を変えたくて、早坂さんや他の先輩の言葉を真似ることから始めたところ、あるときすんなりオペレーターに話が通じたそう。「これだ!」って腑に落ちて、すごくうれしかった。麻衣ちゃんの姿勢に影響されて、入社前より性格も積極的になったと思う」と喜びます。そんな早坂さんも、実は入社当時は、パッケージの強度チェックでミスをして周りに迷惑をかけ、なかなか立ち直れなかったことも。一緒に働く先輩から「失敗は誰にでもあるもの。ここから挽回すればいいんだから、大丈夫!」と声をかけられ元気が出たといいます。この経験もあって、周囲と積極的にコミュニケーションをとることを意識するようになった早坂さん。「分からないことは自分から聞きに行く、分かるまで聞くことが自分と職場全体のために大切。仕事は一人ではできないので」。先輩に励まされて成長した早坂さんが、一年後輩の佐々木さんを勇気づけ、精工の「ポジティブDNA」は受け継がれています。

大好きな仲間がいる職場で 将来はチームを引っ張るリーダーに

宮城工場は、一日に製造するパッケージは約300万枚にもなります。製袋課は圧倒的に女性の割合が高く「女性にとっても働きやすい職場だ」と二人は話します。比較的近い地域から通い、長く勤める社員が多く、産休・育休の取得率も高い水準。出産・育児経験者が多いことから理解もされやすく、お互いに助け合う環境が整っているそう。

今後の目標について、早坂さんは「今まで甘えてきた面もあるから、今後は頼ってもらえるように頑張る。リーダーとして職場を引っ張っていく存在になりたいです」と目を輝かせます。佐々木さんは、材料や製品の種類、多種多様な機械の取り扱いなど、覚えることはまだまだたくさんあります。「どの機械でどんな袋を作れと言われてもすぐに対応できるようにするのが、目下の目標です」。終始笑顔の二人は「お互いがいてよかった」「つらいときは励まし合いながら頑張ります!」と仕事に戻っていききました。

細長い形が好き」と佐々木さんが言うと、早坂さんは「私はサンドイッチかな。パンダの柄が一番かわいい!」と盛り上がりします。二人とも昔から漠然とした将来の夢を持ちながらも、高校卒業後すぐ就職することを選びました。実際に社会人となって感じたのは「大人の大変さ。でもそれと同じくらい、働くことの誇らしさ」。早坂さんも「親に早く楽をさせたかった」と話し、初任給で家族に寿司をごちそうしたことや、昨年は両親を温泉旅館へ招待した思い出を披露してくれました。

後輩へメッセージ

ネガティブ思考にならず前向きに!



「仕事内容や職場の雰囲気は実際に見ると想像していたものと違うこともあります。一社だけでなく複数の企業を見学するのがおすすめ。就職前の貴重な時期は、今しかできないことを悔いなく思いっきり楽しんで」
(佐々木さん)



「仕事で失敗してもネガティブなことは考えず、前向きに! 落ち込んだら一人で抱え込まず周囲に相談して。リフレッシュしながらメンタルを元気に保つことが、長く続けるために一番大事だと思います。」
(早坂さん)

オフショット



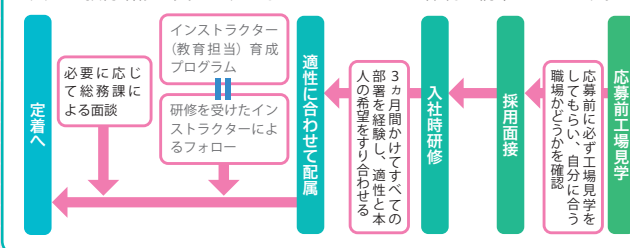
二人のリラックス方法

「3匹の愛犬との散歩でリフレッシュしています!」と話す佐々木さん。天気の良い週末は、2時間ほどかけてゆっくり散歩に出かけるそう。特に小学2年生のときから家族として過ごす15歳の「プーロ」は、もはや相棒ともいえる存在。趣味のドライブと一緒に連れていくこともあります。お酒も友だちとのおしゃべりも大好きな早坂さんのオフは、飲み会が多め。地元だけでなく電車を使って出かけることもよくあるそうで、「新幹線で仙台に行き、友だちの家に泊まって夜通し飲みながら語ることあります!」。

定着のポイント

適性を吟味しミスマッチ防ぐ

ミスマッチによる離職を防ぐため、入社時は3カ月の研修期間を置きすべての部署の仕事を体験した後配属。現場のリーダーに全社共通の教育研修を実施し、若手をフォローできる体制を構築しています。



採用担当者の声



総務課 課長
寺川 成子さん

素直な心と伝える力で 「働きやすさ」は作れます

まずは、他人の言葉を頭から否定せず受け入れる「素直さ」を持ってほしい。その上で「自分の言葉で伝える力」を育てましょう。コミュニケーションが上手なほど、居心地よく楽しく働くことができます。分からないことは自分から聞きにいき、「できないのか、課題は何かを整理できるようになれば成長していけますよ。」